瀧谷山報

平成31年1月8日発行
通巻 160号
発行所
瀧谷不動明王寺
〒584-0058
富田林市彼方(オチカタ)1762
電話 0721-34-0028
振替 00930-5-17704
● 発行人　荒谷純光
● 編集人　荒谷純栄

●観音まつり 法話 その③ 佐藤隆一師――2～3頁
●一月二十八日 初不動法会／平成三十三年 開創一千二百年 記念事業ご奉讃お願い――4頁
●二月三日 節分会行事 ご案内――5頁
●如意宝珠のお授け／節分星祭――6頁
●福豆まき参加者募集（一般参加者）／節分会 甘酒お接待／お正月 特別授与品／修正会不動力ご奉納のお礼／修正会期間中出仕のお礼――7頁
●今後の当山行事予定／ご祈祷時刻 変更のお知らせ――8頁

新しい時代にむけて、真言宗の祈り

平成という年も、あと数ヶ月で終ろうとしています。

思い返せば、「昭和」から「平成」と元号が変わったのが昭和六十四年の一月でした。

昭和天皇が崩御されたニュースが入った時、京都の東寺では、「後七日御修法」と呼ばれる大法要が、始まろうとしておりました。

「後七日御修法」とは、一年の始まりに際して、真言宗各派の管長様をはじめ、宗派を代表する高僧が一同に会して、一月八日から一週間に亘って国家安穏、世界平和を祈願する法要です。昭和から平成への改元に際して、この法要は新しく始まる「平成元年」の平和を祈願して勤められました。

宮中で行われる「御修法」を日本で初めて勤めようと発願されたのは、弘法大師でした。大師の書かれた文章が集められた『性霊集』の中には、「御修法」を宮中で勤める許可を願う文章があります。そこで大師は、御修法を勤めることによって「如来の本意に契い、現当の福聚、諸尊の悲願を獲ん（如来の御心にかない、現在から未来までたくさんの福徳が得られ、さらに仏菩薩の慈悲の想いを得られますように。）」と発願されたのです。それから今日に至るまで、この法要は途中戦乱で休止された以外、連綿として日本の平和祈願のために続けられてきました。

当山の先代住職である實善僧正も、この大法要において息災護摩の修法を勤められました。僧正のお護摩は真言宗の僧侶の中でも有名で、御修法に出任されたお坊さんたちも、そのお護摩を一目見ようと實善僧正の護摩壇の近くに多く集ってきたそうです。

御修法に出任する實善僧正

さて、これから退位される今上天皇は多くの被災地に慰問され、また先の戦争で犠牲になった人々の慰霊のために祈りをささげてこられました。おそらく今上天皇は、日本に住む人々の安寧を常に祈っておられたのではないかと察せられます。

弘法大師が宮中にて御修法を勤めることを発願されたのは、国家安穏の祈りを天皇と共に祈ろうとされたのではないでしょうか。そして平安時代の頃から今日に至るまで、真言宗の先師方も、弘法大師の願いを引き継いで人々の安寧を願って祈念してきました。

これから新しい年号となります。新しい時代をむかえるに際して、未来永劫、子々孫々に亘って平和な世界になることを、私たちも祈り続けて行きたいものです。

今後の当山行事予定

初不動大法会（一月二十八日）

●御本尊開扉大護摩供
午前五時・十時・十一時半・午後一時・二時・三時半
【大般若経転読法要】午前十一時半
●開運厄除　節分福豆 授与　一月二十八日～二月三日まで

節分会・厄除大祈願祭（二月三日）

午前六時・九時半・十時半・十一時半・午後一時・二時・三時半・五時
●如意宝珠のお授け　午前九時～午後四時
●開運福豆まき　午前十一時頃・午後零時頃・午後一時三十分頃
●甘酒お接待　先着二千名様程度　無くなり次第終了
●節分会準備期間（一月三十一日～二月四日）は
お車の安全祈願のお勤めはありません

初午まつり 旧初午（三月十日）

花まつり（三月二十八日～四月八日）

●甘茶接待　同日

明王殿年祭（四月一日）

毎日の御護摩奉修時間

午前6時（28日は5時）	午後1時
午前10時	午後2時
午前11時30分	午後3時30分

交通安全祈願

午前8時30分より午後4時まで
（日・祝日は午後4時30分まで）
毎時0分／30分の30分毎
（毎月28日および1月31日～2月4日はお車の安全祈願はございません）

仏具磨きの日のお知らせ

1月25日　2月25日　3月25日
この日は仏具を磨く日ですから、昼の御護摩はございません。（朝6時のお勤めはいたしております）

ご祈祷時刻 変更のお知らせ

平成31年4月1日よりご祈祷の時刻が変わります。

●本堂 護摩供
【午前】**6時**（毎月28日は**5時**）・**10時**・**11時30分**
【午後】**1時30分**・**3時**

●お車の交通安全祈願
午前9時より午後4時まで（日・祝は**4時30分まで**）

瀧谷山ホームページ　http://www.takidanifudouson.or.jp

観音まつり 法話

その③

神奈川教区 圓能院
佐藤 隆一 師

（159号からの続き）

〔前号の内容：我々一人一人が、良く言えば個性、悪く言えば歪み・偏りを持っている。」だけど普通私たちは、そうは思いません。

関西の人は納豆が嫌いという人が結構多いと思います。「納豆はまずいでしょ、なんか臭くて」という表現は、納豆の客観的な色（物質）が臭い、まずいというふうに思っているというように聞こえます。だけど実は「納豆をあまり食べない文化圏に育った私は、においや味があんまり好きではありません」という表現が適切なんですが、面倒くさいですよね。いちいちそんなこと言ってたら友達をなくしますよね。だけどそれくらい我々の意味付けとか、生活環境によって学習してきた価値観によって、我々の生活がスムーズにいっている面もありますが、弊害もあるということなんです。

そしてもっと内面的なところに重きを置きますと、我々の生理的欲求というのは、例えばお腹がすいたと思ったら、何かを食べれば満たされるわけです。あるいは、のどが渇いたという時には、水を飲めば生理的な欲求というのはそこで収まります。ですが欲望というのは、もっともっとおいしいものとか、もっと素敵なことはないかとか、結局は外の問題に過剰な期待をしているので、内的な自分がどうそれを受け止めるかということを訓練していないと、もっとおいしいものを食べたいとか、もっとあちこちの国に行きたいとか限りがなくなります。だけどもし毎日最高級の料理とか食べてたら、それはそれで飽きてしまうと思います。

仏教ではこれを三毒と言い「貪・瞋・痴」に分けられます。人間誰しも心にはこの三毒があるといわれています。まず「貪」。これは貪り、自分の欲望を満たすために貪ること、もっと食べたい、もっと楽しいことをしたいといった普通に私たちが考える欲望です。

次に「瞋」。これは怒りでして好ましくない対象に対する拒否のことです。自分が嫌だと思ったことを避けるんです。つまり貪と逆ですね。宿題をしない、後回しにするとか苦手な仕事には手をつけないとか、そういったことは結構よくあると思います。これはよくないと二千年も前からお釈迦様はおっしゃっているんです。不得意なことを避け続けていると我々はどんどん歪んでいきますよとおっしゃっています。だから納豆食べてくださいということではないんですが、自分は嫌だからそれはやらなくていいんだとは思わない方がいいんじゃないですかということです。ですからピアニストの人が、料理も掃除も好きでサッカーがうまくて、ヴァイオリンも出来てとそんな人はなかなかいないとは思いますが、「私はピアノができるから家事は全然できなくてもいいわ」とは考えない方がいいと思いますよね。好きな事だけやってればいいと考えているとものすごく歪みますよね。ピアノしか出来ない人よりピアノが出来て家事もそこそこ出来る人の方が魅力的に見えます。

最後に「痴」。これは無知、正しい知識を持たないことです。これは常識的な理解の範囲で結構だと思います。ですから貪・瞋・痴なんていうのは基本じゃないのと皆さん思われるかもしれませんが、これが出来ない。

今、DVとかパワハラですとか、いろんな人間関係の中で思い通りに相手がならないと、殺人事件にまで発展してしまうことが残念ながら起こっています。これは自分の気持ちの整理がつかない人が多いからだと思います。要するに、世の中他の人たちも自分の意のままになると思ってしまっている。そうではないんです。我々は自分の家族とか仲間とかも、それぞれ自分の人生・価値観を持っているんだし、自分もそういう組織の中で何が出来るのか。あるいは、これをやるのは嫌だな、どうしてわかってくれないんだろうと思うことはあります。けれどそれは、ただ自分の至らなさかも知れないなと考える、ごく当たり前の気持ちというのが育っていない一つの表れだと思います。

最後にお大師様の詩を紹介します。

春の花　秋の菊
笑って我に向へり
暁の月　朝の風
情塵を洗ふ
一身の三密は塵滴に過ぎたり
十方法界の身に奉献す

春秋の花が自分に向かって笑いかけてくれている。暁の月や朝の風が、心の塵を洗い流してくれている。自分の三密（身・口・意）は塵のようなもの、自分というのはちっぽけな存在に過ぎないが、森羅万象全てのために自分を捧げたい、というお大師様が二十代の頃に書かれた詩です。この発想が素晴らしいと思います。

我々は今癒されたいとか、もっと楽になりたいとかそういうことばかりとは言いませんが、そういう考えが多いですよね。だけどお大師様は、自分はちっぽけな人間かもしれないけれど、ここに生かされて人として生を受けて自分自身を世の中のために、あるいは仏さまのために、自分の全てを捧げましょうという風に、若い時にこの詩を作られているんですね。私もなかなか言葉では言っても実践は出来ないんですが、少しでも花を見た時や、カチンときて心が乱れている時は、この句を思い出すようにしています。

人間の怒りというのは、七秒我慢すると消えると言われています。人はカチンときた時に、自分の記憶とか思い込みとか総動員して、感情をどんどん増幅させてしまいます。こうしたことをなるべく少なくして、お大師様の詩に少しでも近付くことができれば、人として仏教徒として、理想的な気持ちに近付けるのではないのかなと思います。

（完）

●この法話は平成二十六年の観音まつりにてお話いただいたもので、編集の都合によりこれまで未掲載となっておりました。ここに掲載いたします。

一月二十八日　初不動法会

一年で最初のご縁日である一月二十八日には、初不動法会が営まれます。当日は、午前十二時半より本堂にて大般若転読付大護摩供が勤められ、国家安穏・万民豊楽等を祈念し、あわせて御信徒皆様のお願い事を祈願いたします。

『大般若経』は、西遊記の三蔵法師のモデルとしても有名な唐の玄奘三蔵が、インドより将来・翻訳した経典で、巻数は六百巻、字数にして約五百万字にもなる膨大な経典です。古来より般若経は、仏舎利塔に奉納されるなど、仏舎利にも匹敵する利益をもたらすものとして広く信仰され、保持・読誦・講延すれば人々に多大な功徳・ご利益をもたらすとされます。

大般若経転読法要は、日本では古く奈良時代から行われ、転読という作法に則り、大勢の僧侶により全六百巻を空中で翻転する華やかな法要が営まれます。

皆様にはぜひ初不動にご参拝になり、お不動様とご縁を深められるとともに、般若経の大きな利益を受けられますよう、ご案内申し上げます。

初不動法会

平成三十三年 開創一千二百年　記念事業ご奉讃お願い

当山は平安時代 弘仁十二年（西暦八百二十一年）弘法大師の開基と伝えられ、平成三十三年は開創一千二百年に正当いたします。

この勝縁に際しまして、平成三十三年五月に開創一千二百年祝祷法要を奉修する予定であります。またこの法要の記念事業として、客殿棟と寺務棟の新築を計画した次第であります。

昨年末、第一期工事の寺務棟の建設が完了いたしました。続く第二期工事の客殿棟は来年十一月の完成を予定しております。

おかげさまで、これまでにも多くの方々からご奉讃をいただいておりますが、今後ともご協力を賜りたくお願い申し上げます。ご信徒皆様方には何かとご多端の所ことに恐縮に存じますが、重ねてお願いを申し上げます。

●受付　当山寺務所

●御奉賛いただいた方の御待遇は当山ホームページ、または山報前号に記載しております。

完成予想図

二月三日　節分会

来たる二月三日、瀧谷山では節分会として、厄除大祈願祭・開運福豆まき式・如意宝珠のお授け・星祭りが勤められます。

節分に行われる厄除けの行事は、宮中で行われた「追儺（ついな）」の儀式に由来するとされ、現代では一般に、厄年に当たる方が厄除けの祈祷を受けられるとともに、福豆をまくことで厄を払い、福を招く行事として伝承されています。

厄年は社会的な地位の変化や、結婚・出産・育児などで肉体的・精神的・社会的な節目にあたる年齢と言われています。厄年に当たられる方には、厄年を無事に過ごせるよう、厄除けのご祈祷をお受けになることをお勧めいたします。

一般に厄年のご祈祷は節分までにと言われており、当山でも節分会では厄除大祈願祭として盛大にお勤めしております。

また当日は境内にて、年男・年女の方に豆をまいていただき、福をお裾分けいただく開運福豆まき式が三度にわたって執り行われます。

皆様には、どうか節分会にご参拝になり、お不動様の加護を受けられて大きな福をお持ち帰りいただきますよう、ご案内申し上げます。

節分会行事　ご案内

開運福豆まき

◆境内特設会場

午前　十一時頃

午後　零時頃・一時三十分頃

厄除けのご祈祷

◆本堂　護摩祈祷時刻

午前　六時・九時三十分

十時三十分・十一時三十分

午後　一時・二時・三時三十分・五時

●厄年 早見表（年齢は数え年）

男性			女性	
平成 7年生まれ	25才	厄年	19才	平成 13年生まれ
昭和 54年生まれ	41才	前厄年	32才	昭和 63年生まれ
昭和 53年生まれ	42才	本厄年	33才	昭和 62年生まれ
昭和 52年生まれ	43才	後厄年	34才	昭和 61年生まれ
昭和 34年生まれ	61才	厄年	37才	昭和 58年生まれ

如意宝珠のお授け

如意宝珠は、意のままにあらゆる願いをかなえ、人々を救う力があることから、如意宝珠と呼ばれています。

弘法大師は、如意宝珠について「自然道理の如来の分身なり」と述べられ、この如意宝珠は、限りない慈悲の心をもった仏の御身そのものであると説かれています。弘法大師以来、如意宝珠は真言宗最極の秘物とされ、当山でも平素は秘して大切にお祀りしておりますが、ぜひとも皆様に如意宝珠の大きなご利益に与かっていただきたいという思いから、一年に一度だけ、節分会に皆様にお授けしております。

昨年は工事のためお授けを中止いたしましたが、年末に一期工事の寺務棟が完成いたしましたので、今年はここに道場を設け、皆様にお授けいたします。

皆様にはどうか節分会には是非ご参拝になり、如意宝珠のお授けを受けられて、本年のご幸福を得られますようおすすめ申し上げます。

●場所　寺務棟　特設道場
●時間　午前九時～午後四時
●如意宝珠守は特設道場にて授与しております。一体、二千円以上のご志納をいただいております。

如意宝珠のお授け

二月三日　節分星祭

一年ごとにめぐってその年の吉凶を左右する星を当年星と言い、数え年一歳の羅睺星に始まり九つの星があります。星祭は、一年の節目である節分の日に、これらの星を供養することで、一年の禍を払い、運を開き福を招く儀礼で、日本では古く平安時代から行われてきました。

来たる二月三日の午後五時より本堂にて、お護摩祈祷とあわせ、その年の人それぞれの運命をつかさどる九つの星を供養し、息災延命・開運招福等、所願成就を祈念しお勤めいたします。年齢や当星にかかわらずお申込みいただき、今年一年のご多幸を祈られますよう、おすすめいたします。

●星祭のご祈祷　一体　五百円
●星祭の祈祷のお申込みは、同封の申込用紙に氏名・年齢（数え年）をはっきりと記入いただき、一月二十日までにお送りください。

星祭のお札

平成三十一年九曜星早見表（数字は数え年）

●羅睺	大凶	八白	1	10	19	28	37	46
◑土曜	半吉	九紫	2	11	20	29	38	47
○水曜	大吉	一白	3	12	21	30	39	48
◐金曜	末吉	二黒	4	13	22	31	40	49
○日曜	大吉	三碧	5	14	23	32	41	50
●火曜	大凶	四緑	6	15	24	33	42	51
●計都	大凶	五黄	7	16	25	34	43	52
◑月曜	半吉	六白	8	17	26	35	44	53
○木曜	大吉	七赤	9	18	27	36	45	54
			63	72	81	90	99	
			62	71	80	89	98	
			61	70	79	88	97	
			60	69	78	87	96	
			59	68	77	86	95	
			58	67	76	85	94	
			57	66	75	84	93	
			56	65	74	83	92	
			55	64	73	82	91	

福豆まき参加者募集（一般参加者）

二月三日の節分会では、境内にて開運福豆まき式を執り行います。その豆まき式にて豆をまいていただく年男・年女の方を、当たり年にかかわらず募集しております。

皆様にはぜひ豆まきにご参加いただき、大きな福をお持ち帰りいただきますよう、ご案内申し上げます。

節分会の福豆まき

◆場所　境内特設会場
◆日時　二月三日（日）
・第一回　午前　十一時頃（本堂十時三十分の御護摩の後）
・第二回　午後　零時頃（本堂十一時三十分の御護摩の後）
・第三回　午後一時三十分頃（本堂一時の御護摩の後）
◆募集人数　三十名
性別、年齢は問いません。お申込み、お問合せは寺務所まで。
◆年男・年女参加費　一万円（豆をまく人）
◆お申込みの方には、詳しいご案内を差し上げます。
◆記念品
祈祷札・熊手・福豆

お正月　特別授与品

●開運招福　熊手

（二千五百円）

●開運厄除　矢守

（千五百円）

●台所守護　三宝大荒神御札

（八百円）

熊手、矢守は元日から節分までの間だけ授与しております。

節分会　甘酒お接待

二月三日、境内にて甘酒をご接待申し上げております。

●先着二千名様程度
無くなり次第終了

修正会不動力ご奉納のお礼

修正会にお不動様の御宝前にお供えする聖酒「不動力」の奉納をご案内いたしましたところ、沢山のお供えを賜りまして、誠にありがとうございました。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

修正会期間中出仕のお礼

修正会期間中、日頃からお世話になっております奉賛会修験部・世話人部・婦人部役員・二八会の皆様には、新年早々お忙しいところ、また寒い中をご出仕・ご奉仕いただき、誠にありがとうございました。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

●「経典解説」は今回お休みします。